

EUROPEAN PATENT OFFICE

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 10192028
PUBLICATION DATE : 28-07-98

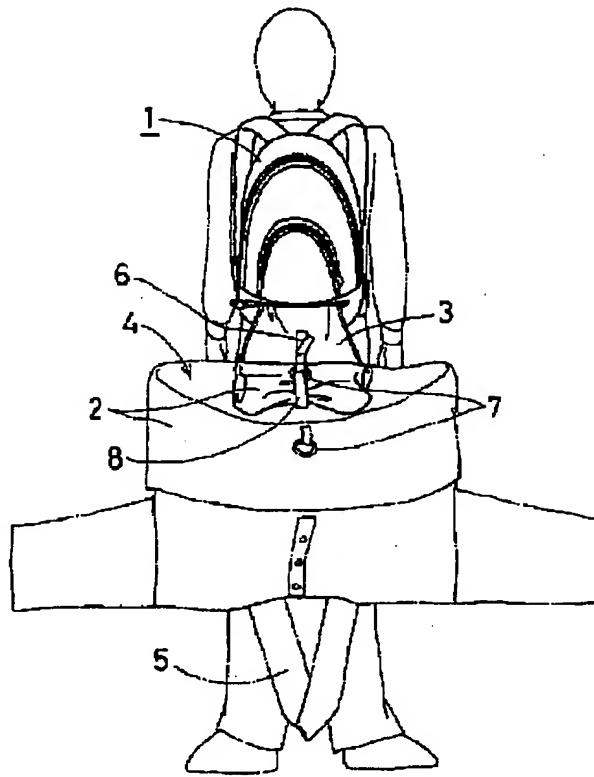
APPLICATION DATE : 16-01-97
APPLICATION NUMBER : 09005615

APPLICANT : HIROSE:KK;

INVENTOR : HIROSE KEIJI;

INT.CL. : A45C 9/00 A41D 3/04 A45C 15/00

TITLE : BAG



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a bag hardly being wetted equal to a wearing person in the state of wearing a raincoat by providing a bag part and a raincoat part, connecting the bag part and the raincoat part and covering a body together with the bag part by the unfolded raincoat part as needed.

SOLUTION: This bag is a back carrying type to be fixed to the back side of the body and is provided with the bag part 1 and the raincoat part 2. The bag part 1 and the raincoat part 2 are connected through a connection part 3. For the raincoat part 2, a large opening end 4 on the lower bottom side of the raincoat part 2 is passed from the back side to the body from a head and a hood part 5 is finally put on the head. The raincoat part 2 is divided from other contents and housed in the lower area of the bag part 1 when it is not used. When it is needed like the time of a sudden rain at a tourist resort, in the state of carrying the bag part 1 on the back, the fastener of the lower area is opened and the raincoat part 2 is pulled out. Then, a second fixing band 8 is detached from a first fixing band 6 by groping, the first fixing band 6 and a ring 7 are detached, the raincoat part 2 is unfolded, entirely put on from the head and worn and the body is covered together with the bag part 1.

COPYRIGHT: (C)1998,JPO

BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-192028

(43)公開日 平成10年(1998)7月28日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	F I
A 4 5 C 9/00		A 4 5 C 9/00
A 4 1 D 3/04		A 4 1 D 3/04
		M
		D
		M
		G
A 4 5 C 15/00		A 4 5 C 15/00
		Z

審査請求 未請求 請求項の数4 OL (全5頁)

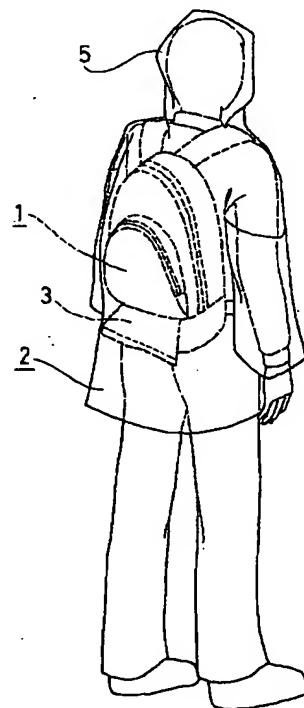
(21)出願番号	特願平9-5615	(71)出願人 393025482 株式会社ヒロセ 兵庫県豊岡市中陰521番地
(22)出願日	平成9年(1997)1月16日	(72)発明者 廣瀬 敬二 兵庫県豊岡市中陰521番地 株式会社ヒロ セ内
		(74)代理人 弁理士 辻本 一義

(54)【発明の名称】 鞄

(57)【要約】

【課題】 合羽を着用した状態で着用者と同様に濡れにくい鞄を提供しようとするもの。

【解決手段】 身体に固定する形式の鞄であって鞄部1と合羽部2とを具備すると共にこれら鞄部1と合羽部2とは連結され、必要時には展開した合羽部2により身体を鞄部1ごと覆うようにした。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 身体に固定する形式の鞄であって鞄部と合羽部とを具備すると共にこれら鞄部と合羽部とは連結され、必要時には展開した合羽部により身体を鞄部ごと覆うようにしたことを特徴とする鞄。

【請求項2】 身体の背中側に固定する形式の鞄であって、必要時には鞄部に収容された合羽部を引き出して頭からかぶって着用するようにした請求項1記載の鞄。

【請求項3】 合羽部は鞄部の下部領域に他の収容物から区画されて収容された請求項1又は2記載の鞄。

【請求項4】 鞄部と合羽部とは連結部を介して連結されている請求項1乃至3のいずれかに記載の鞄。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、雨の際に有用な鞄に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、野球観戦やハイキングなどで雨が降りそうな時は鞄に合羽（雨具）を収容しておき、雨が降りだしたら鞄から合羽を取り出して着用することができる。このように鞄に合羽を収容しておくと、不意の雨でも傘で片手をふさがれることなく対処できる。

【0003】しかし、合羽を着用すると着用者自体は雨を避けられるが、合羽を収容していた鞄の方は傘をさす場合と反して雨に濡れてしまう。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】そこで、この発明は、合羽を着用した状態で着用者と同様に濡れにくい鞄を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】前記課題を解決するためこの発明では次のような技術的手段を講じている。

【0006】この発明の鞄は、身体に固定する形式の鞄であって鞄部と合羽部とを具備すると共にこれら鞄部と合羽部とは連結され、必要時には展開した合羽部により身体を鞄部ごと覆うようにしたことを特徴とする。

【0007】この鞄によると、必要時には鞄部に連結されている合羽部を展開して身体を、身体に固定した鞄部ごと覆うことができる。

【0008】ここで、身体の背中側に固定する形式の鞄であって、必要時には鞄部に収容された合羽部を引き出して頭からかぶって着用するようにしてもよい。このように構成すると、必要時には身体の背中側に固定した鞄部に収容された合羽部を引き出して頭からかぶるだけで着用することができるので、急な降雨に対して迅速に対応することができる。

【0009】また、合羽部は鞄部の下部領域に他の収容物から区画されて収容されたこととしてもよい。このように構成すると、雨が上がって合羽部を鞄部に再収容した際にも他の収容物の上に雨滴が滴り落ちて濡らしたり

たりすることがない。

【0010】さらに、鞄部と合羽部とは連結部を介して連結されていることとしてもよい。このように構成すると、鞄部と合羽部との間に介在する連結部の領域が遊びとなるので、合羽部を引き出して着用する際の寸法的余裕があつて非常に着用しやすい。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施の形態を図面を参照して説明する。

【0012】図1及び図2に示すように、この実施形態の鞄は身体の背中側に固定する背負い式の形式としており、鞄部1と合羽部2とを具備する。鞄部1と合羽部2とは、連結部3を介して連結されている。

【0013】合羽部2は、鞄部1から引き出して頭からすっぽりかぶって着用する形態としている。すなわち、合羽部2は左右両側から手を通してから合わす形態ではなく、背中側から合羽部2の下裾側の大きな開口端4を頭から体に通して、最終的にフード部5を頭に被るようしている。

【0014】図3及び図4に示すように、合羽部2は、不使用時には鞄部1の下部領域に他の収容物（図示せず）から区画されて収容できるようにしている。

【0015】図5及び図6に示すように、合羽部2は次のようにして鞄部1に収容している。合羽部2を折り畳んでいって、先ず連結部3側の第一止めバンド6と合羽部2の裾の中央近傍に固定したリング7とをマジックテープ（登録商標）で固定し、次に折り畳んだ合羽部2の外側に固定した第二止めバンド8と前記第一止めバンド6をマジックテープで固定する。その後、鞄部1の下部領域に収容してファスナー9を閉じる。第二止めバンド8の端部を予め折り返しておくと、手さぐりでも非常に分かりやすい。

【0016】次に、この実施形態の鞄の使用状態を説明する。行楽先で雨が急に降りだしたときなどの必要時には、鞄部1を背負ったままの状態で下部領域のファスナー9を開き合羽部2を引き出して、手さぐりで第二止めバンド8を第一止めバンド6から外すと共に、第一止めバンド6とリング7とを外して合羽部2を展開し、頭からすっぽりかぶって着用し身体を鞄部1ごと覆う。

【0017】なお、合羽部2は鞄部1の下部領域に収容しており、丁度腰の当たりの位置に相当するので、手を後ろに回して合羽部2を手さぐりで展開する作業が非常にやり易い。

【0018】この鞄によると、必要時には鞄部1に連結されている合羽部2を展開して身体を、身体に固定した鞄部1ごと覆うことができるので、合羽を着用した状態で着用者と同様に鞄部1も濡れにくいという利点がある。

【0019】また、身体の背中側に固定した鞄部1に収容された合羽部2を引き出して頭からかぶるだけで簡単

に一遍に着用することができるので、急な降雨に対して鞄を背負ったまままで迅速に対応することができるという利点がある。

【0020】また、鞄部1と合羽部2との間に介在する連結部3の領域が遊びとなるので、合羽部2を引き出して着用する際の寸法的余裕があつて非常に着用しやすいという利点がある。色々な体型の人に対して容易に適合するのである。

【0021】さらに、雨が上がって合羽部2を鞄部1に再収容した際にも他の収容物の上に雨滴が滴り落ちて濡らしたりたりすることがないという利点がある。

【0022】ところで、引き出した合羽部2は左右両側から着用し、身体の中央部でファスナーやボタンによって相互を連結するタイプのものとしてもよい。

【0023】この鞄は、リュック・サック、ヒップ・バッグ、ウェスト・ポーチその他の各種のタイプに適用することができ、子供の遠足その他に好適に使用することができる。また、合羽部に防寒具としての機能を併せ持たせると、冬季などの寒い時期の降雨は非常に肌寒いものがあるので、このような時期により重宝なものとして使用することができるようになる。

【0024】

【発明の効果】この発明は上述のような構成であり、次の効果を有する。

【0025】身体を身体に固定した鞄部ごと覆うことができるので、合羽を着用した状態で着用者と同様に濡れにくい鞄を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の鞄の実施形態で鞄部を背負い合羽部を着用した状態を説明する斜視図。

【図2】図1の鞄の合羽部を展開した状態を説明する斜視図。

【図3】図1の鞄の鞄部に合羽部が収容された状態の一部破断側面図。

【図4】図1の鞄の鞄部から合羽部が引き出された状態の一部破断側面図。

【図5】図1の鞄の鞄部に合羽部を収容していく状態を説明する斜視図。

【図6】図1の鞄の鞄部に合羽部を収容するために止めバンドとリングとを固定した状態を説明する斜視図。

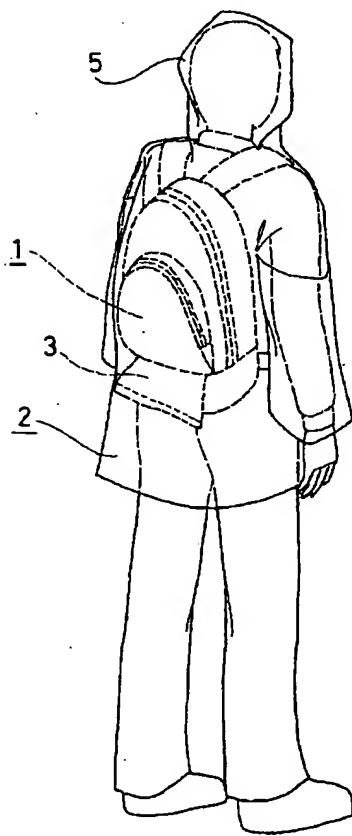
【符号の説明】

1 鞄部

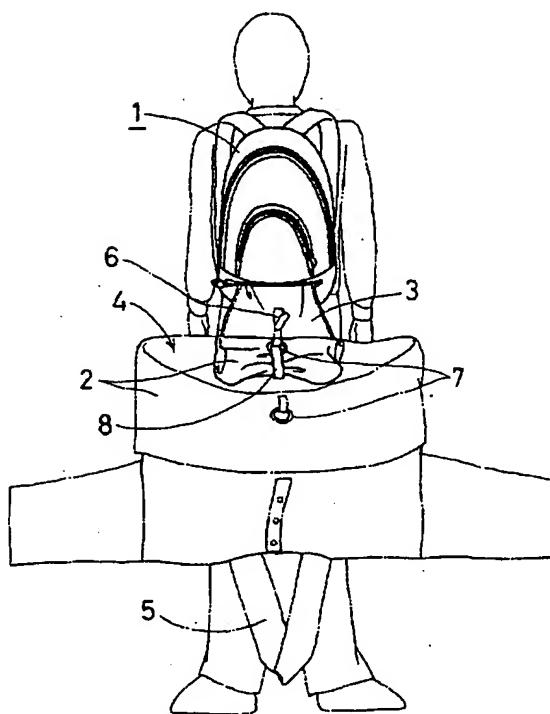
2 合羽部

3 連結部

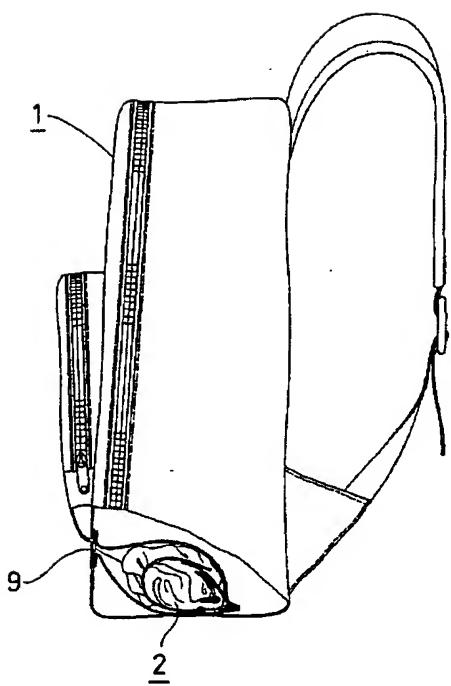
【図1】



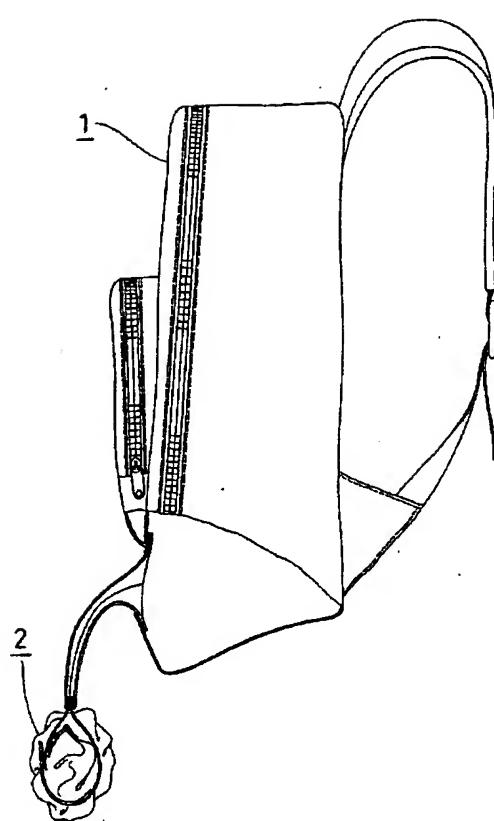
【図2】



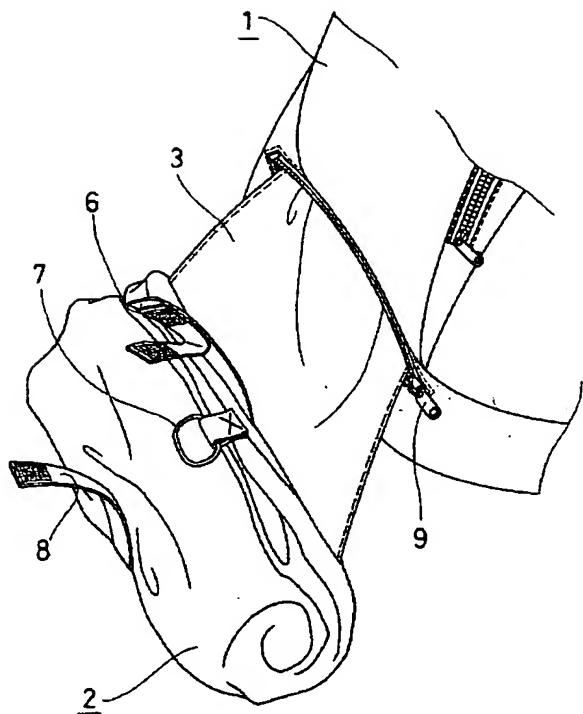
【図3】



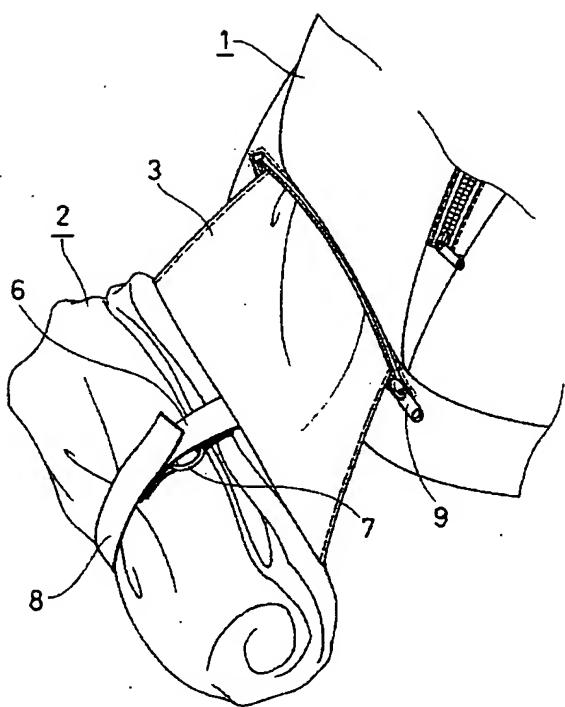
【図4】



【図5】



【図6】



THIS PAGE BLANK (USPTO)